

NP0 推進北海道会議 2026 年度事業計画書

0 2026 年度の方針

23 年度から開始した「共同研究会」を継続します。昨年北海道 NP0 サポートセンターの協力を得てセミナー実施ができたことから中間支援団体との連携、協力が有効と考え、他県の中間支援の方にゲストを紹介してもらえないか打診しています。

また、19 年度に開始した読書会を引き続き継続します。また、北海道 NP0 サポートセンターとの連携関係を活かし、その活動を補完しつつ、実験的な取り組みや対象者の少ない活動、また、非営利活動の足跡の研究や NP0 の先進事例の学習などに積極的に取り組み、非営利活動のあり方の探究に務め、これらに関する、グループの理事や事務局スタッフの要望や企画の具体化を支援します。

1 NP0 推進政策提案（アドボカシー）活動

NP0 政策やロビイング活動についての情報収集を行い、かつ、NP0 サポートセンター、日本 NP0 センター、セイエン、I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所]等と連携し情報収集、情報発信につとめます。また、「社会的責任向上のための NP0 / N G O ネットワーク」（NN ネット）に参加します。

2 研修・交流・学習活動

19 年度より開始した、読書会を継続実施します。0. の方針にそって、関係者の要望を実現するよう努めます。

3 調査研究活動（共同研究会活動）

3-1) 北海道における市民社会を考える活動をすることを目指します。

23 年度から始まった「NP0 推進北海道会議共同研究会」活動を継続します。25 年度は理論編、実践編 1 回ずつセミナーを開催しました。他県中間支援団体との連携、協力関係を築き、ゲストをお招きしたり、研究会メンバーを他県に紹介したりすることを検討します。

研究会の運営方針については、発足時の田口さんの発言を引用します。

「20 年前に NPO の理論を考察したときに市民社会という概念で考えた。今改めて検討したいと思っている。人のつながり、市民社会論は自発的結社の考えに基づいていたが、新しい人のつながり方を考えていきたい。若い人にも伝えたいので。市民社会という言葉が多義的になっているので、捉え直しをしていきたい。」

・共同研究会を会員制にすることを提案します。参加無料、推進会議役員または研究会メンバー推薦により、研究会メンバー登録できることとします。現役員と推進会議会員の方は希望すれば、研究会メンバーに登録できることとします。

3－2) 非営利活動についての調査、研究活動については、関係者の要望に応じて実施します。

4 組織拡充と地域ネットワークづくり

4－1) 理事会の開催 事業進行状況により開催します。

4－2) 会員数は、団体 45 個人 40 人を目標にします。

4－3) 北海道内外各地の NPO と連携しながら活動します。他県の NPO センター関係者に研究会活動を説明し、登壇者のご紹介をいただけないかなど協力の可能性を検討しています。

4－4) 北海道 NPO サポートセンター、北海道 NPO ファンドとともに NPO としてできる災害支援および防災に取り組みます。